

Innovation Times

Vol.27

企画・制作=神奈川新聞社 企画推進室

# SDGs 横浜の挑戦



## 熱い議論で夕ネまさ

SDGsや地域コミュニティの発展について考える「川でつながるSDGs交流会」が発足して1年8カ月。大岡川のすぐ近く、南区井土ヶ谷下町の太陽住建のおひさま広場に、横浜内外の企業・団体や行政など多彩な人たちが集まり、熱気あふれる議論で横浜にSDGsの夕ネをまいてきた。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、第10回が延期されたままだが、「待ちきれない」思いで、同会の発起人3人をお誘いし、ウェブ会議ツール「Zoom」でオンライン座談会を開いてみた。

(司会・春名 義弘)

### オンライン座談会 発起人大いに語る

「会が発生したいきざつを教えてください。」  
河原 大岡川を中心に仲間たちと清掃活動を行っている豊田さんを応援してということのきっかけですが、川沿いの団体が緩くつながり、SDGsを学びながら、地域を盛り上げていきたいという思いも込め設立しました。

「交流会は30〜40人規模。さまざまな分野のゲストスピーカーによる講演と交流会が

自身、SDGsのアクティビストでいられる、そう実感しています。

河原 おひさま広場に多くの人にお越しいただき、弊社を知ってもらう機会になりました。他に先駆け、2030年のあるべき姿を目指す「SDGsレポート」を発信できたのも、会の活動を通じ、全社を挙げた意識の高まりができたからこそと考えます。また、空き家活用で開設した地域コミュニティ拠点Yワイ広場(磯子区)に、太陽光発電初期費用なしの「0円ソーラー」と耐震シェルターを設ける運びとなりました。ここでの縁があったからです。

豊田 何と言っても、ごく限られた私のネットワークが大きく広がり、活動の展開に

### 「川でつながるSDGs交流会」



オンラインで行われた川でつながるSDGs交流会。座談会。左上から時計回りに、大川哲郎さん、河原英信さん、豊田直之さん、筆者

### 「先の一手」へ視野広げ

気候マーチ主催・宮崎紗矢香さん

#### 新社会人で新たなスタート

新型コロナウイルス禍の4月、新社会人が希望を胸に新たな一歩を踏み出した。戸塚区の大川印刷に入社した宮崎紗矢香さんもそんな一人だ。昨年、都内をデモ行進したグローバル気候マーチ主催団体のオーガナイザーを務めた経歴の持ち主。気候変動に対する思いや社会人としての抱負などを伺った。

(春名 義弘)

昨年9月、気候変動対策を求めて、東京・渋谷で2800人がデモ行進した。スウェ

ーデンの環境活動家、グレッタ・トゥーンベリさんが始めたFridays For Future (FFF)の東京支部のメンバーとして、デモを企画、都議会に気候非常事態宣言の請願書を提出するなどした。

その半年前、SDGs先進国・スウェーデンの環境視察ツアーに参加した。「帰国後の就職活動ではSDGsを掲げる日本企業を受けました

「紙を扱う印刷業ほど、SDGsの根本にある地球環境について学ばせてくれる仕事はありません」。紙は、生ま

そのうえで、同社を「変化創造型」の企業と捉え、強みを生かすことを見据える。「印刷を生業としながら、その先の一手を開拓します。演劇や

「SDGs横浜の挑戦」編集室では、読者の皆さんから「あなたが伝えたいSDGsショートメッセージ」を募集します。持続可能な社会の実現に向け、あなたや家庭で実践していること、17の目標について考えること、コロナ禍とSDGsなど、何でも結構です。150字程度で書いてください。編集室で選んだメッセージについては、随時紹介させていただきます。

年齢は問いませんが、休校あなたが伝えたいSDGs



昨年9月、グローバル気候マーチで行進

「地球はさびやいたけれど、あなたには聞こえないな。地球は話したけれど、あなたは聞かなかった。地球は叫んだけれど、あなたは聞こえなかった。地球は泣いたけれど、あなたは涙を流さなかった。地球は死ななうたけれど、あなたは気づかなかった。」



## 地球の「悲鳴」拒んだあなた

「地球はさびやいたけれど、あなたには聞こえないな。地球は話したけれど、あなたは聞かなかった。地球は叫んだけれど、あなたは聞こえなかった。地球は泣いたけれど、あなたは涙を流さなかった。地球は死ななうたけれど、あなたは気づかなかった。」

の関心を持つことを大事にしてきた。なごも嘆き、行動を促す。

また研究者からは「ウィルスまん延の二因は温暖化や環境破壊」とする発言も相次ぐ。すみかを追われた野生動物が、餌を求めて人の生活空間に近づいたことが影響しているという。

コロナ禍は、環境や健康はもとより、貧困、差別、教育、働き方、経済など、SDGsのすべてのゴールに関わる。今の状況は序章にすぎないかもしれない。力を合わせて行動変容しない限り、持続可能社会の実現はありえない。

（「SDGs 横浜の挑戦」編集長 春名 義弘）

豊田 これまでは交流会を開催することに終始し、アイデアを出せなかった感があります。今後は土曜開催で、これまで来られなかった人たちの参加を促したり、実際の現場を体験するワークショップ型の交流会を開いたり、年一回、規模のもう少し大きいシンポジウムを開いたりしてみたいと思います。

環境問題は政府主導で動かなければ手遅れになります。将来的には、交流会の動向や主張が無視できないような存在になればと思っております。

—あえて「大岡川」ではな

く、「川でつながる」のネットミング。そのココロは？

大川 大岡川流域の企業・市民・団体の連携をまずは深めていき、ゆくゆくは、他県や他の地域の河川でも同様の活動が展開され、ネットワークができればと考えました。実際にいくつかの地域へお声掛けしており、河川の水質改善や海洋プラスチックの削減に向けた動きが、各地に広まっていくことを目指します。

◇ オンライン座談会では「コロナ禍とSDGs」についても質問しました。次号に掲載する予定です。

### 伝えたい SDGs

#### メッセージを募集

で自宅学習が続く子供たちの応募もお待ちしています。

応募方法は、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業(学年)、電話番号を明記の上、▽郵送＝郵便番号231-8445(住所不要)、神奈川新聞社クロスメディア営業局「SDGs横浜の挑戦」編集室▽ファクス＝045(227)0765▽電子メール＝sdgs@kanagawa-np.co.jp(画像はJPEG形式で)

なお、掲載の際は、趣旨を変えずに添削することもあります。(春名 義弘)



「地球はさびやいたけれど、あなたには聞こえないな。地球は話したけれど、あなたは聞かなかった。地球は叫んだけれど、あなたは聞こえなかった。地球は泣いたけれど、あなたは涙を流さなかった。地球は死ななうたけれど、あなたは気づかなかった。」

このままでは気候危機にフォーカスしてきたが、視野を広げたい思いも募る。「生命を脅かす気候危機より大事なものが、この世には存在するか、もしもありません。独りよがりな感情や人間の醜さを見捨てず



かもめ文庫 かながわ・ふるさとシリーズ 66

# かながわ定食紀行

もう一杯!

今 終二



カツとよし

ノンビリもよし

ホツと安らぐ定食屋さん 50軒。

サバ味噌、トンカツ、オムライス、レバニラ、メンチに生姜焼き、ナス焼き、ホルモン、カキフライ…。

味も値段もボリュームも大満足の50軒。そんな定食屋の魅力取材した「かながわ定食紀行」シリーズ。広大無辺な神奈川の定食事情を探求するべく、庶民派・今終二が自由気ままに旅する定食探訪記。

「みなさん、美味しい昼ごはん食べてますか?」



神奈川新聞社 〒231-8445 横浜市中区太田町2-23  
 出版メディア部 TEL.045-227-0850 FAX.045-227-0785  
 www.kanaloco.jp/ ●お問い合わせは、月～金曜(平日)10時から18時まで。  
 ※お求めは、書店または新聞販売店をお願いします。